

平成 28年度 高松市事務事業評価表 (事中・事後評価)

事務事業名	動物愛護管理事業		
部 局 名	健康福祉局	課(室)名	生活衛生課
電話番号	087-839-2865		

【事業全体概要】まちづくりの目標：人と環境にやさしい安全で住みよいまち

総合計画	政策	安全で安心して暮らせる環境の整備		主体	市
	施策	生活衛生の向上		期間	平成 20年度～平成 27年度
	基本事業	環境衛生対策の推進		総事業費	769,979
重点取組項目	重点取組課題 4		特定財源	国	3,795
関連根拠法令等	狂犬病予防法、動物の愛護及び管理に関する法律			県	36,583
事業区分	自治事務	種別	事中・事後	市債	
事業種類	補助			他	394,150
				一般	335,451

事業の概要
 犬の登録や狂犬病予防注射の実施、野犬や負傷犬猫等の収容、犬猫不妊・去勢手術費用の補助、動物取扱業の登録や監視指導、犬猫に関する相談、犬猫の適正な飼い方の啓発

【事業の目的と指標】

対象	犬、猫等ペットを飼っている市民	対象指標名
		狂犬病予防接種数 ペットを飼っている市民(推定)
手段	飼い犬の登録及び狂犬病予防注射。鑑札、注射済票の交付。登録を受けず、又は予防注射を受けていない犬の抑留。犬猫不妊去勢手術費への補助金制度。適正飼養の普及啓発。	活動指標名
		狂犬病予防注射票交付件数 犬猫の適正な飼い方等に関する講習会の開催数
意図	狂犬病の発生を予防し、そのまん延を防止することにより市民の健康を守る。動物の飼養について法令が遵守され、適正に飼養されることにより、周辺住民へのトラブルがない状況にする。犬猫の引取り数を減少する。	成果指標名
		犬猫引取り数 犬猫の飼い方に関する苦情件数
結果	人と動物が共に安全で健康的に生活できる社会となる。	効率指標名
		千円当たりの注射済票交付件数 千円当たりの講習会開催可能回数

【指標値および事業費の推移】

指標名	単位	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	目標値	目標年度
対象指標	件	15,392	15,284	15,328	15,500	
	人	158,000	157,990	157,990	164,000	
活動指標	件	15,392	15,284	15,328	15,500	
	件	46	119	117	36	
成果指標	頭	1,149	1,190	1,080	1,100	
	件	195	232	262	200	
効率指標	件	0.277	0.249	0.262	0.34	
	回	0.127	0.322	0.317	0.094	
トータルコスト	[千円]	93,562	103,613	96,822		
(事業費)	[千円]	62,430	71,875	63,811		
(職員人件費)	[千円]	31,132	31,738	33,011		

【環境変化等】

開始時周辺環境(背景)	現状周辺環境	今後周辺環境(予測)	住民意向分析
国内で狂犬病が発生していた昭和 25 年に狂犬病予防法が施行された。人々の生活における愛玩のみならず伴侶動物としての重要性が高まる一方で、動物を巡る迷惑問題が顕在化していた。	国内での狂犬病の発生はないが、平成 25 年 7 月に非発生国であった台湾にて 5 年ぶりに狂犬病の発生があり、狂犬病予防の意義の重要性が再認識された。また、伴侶動物としての重要性がより一層高まる一方で、依然として動物の不適切な飼養や近隣への迷惑問題等がある。捕獲や引取り処分される犬猫の数は多い。	国内で狂犬病の発生のない状況が維持される。捕獲引取り数が減少するとともに、返還及び譲渡数が増え、処分される犬猫の数が減少する。	近年、国内で狂犬病の発生がないためか、狂犬病予防接種をしていない人が多くなっている。動物愛護意識の高まりもあり、他の人の飼い方に関心を持つ人が増えている。

【妥当性評価】

1. 事業の実施主体として市の関与は妥当か A 法令等により市が実施しなければならない 法定事務であり市による実施が妥当である。
2. 事業の上位目標である施策に貢献しているか A 貢献度が大きい 犬や猫の殺処分件数が減少している。
3. 成果を上げるため、またコストを削減するため、対象あるいは意図（目指す状態）を拡充・縮小する必要があるか B 必要性は中程度 登録、注射、引取りなどの手数料を徴収している。
4. 事業を廃止・休止した場合に影響があるか A 影響は大きい もし、狂犬病が市内に発生した場合、狂犬病予防接種を受けていなければ、市内に狂犬病が蔓延し、危険な状況となる。また、法定事務であり、廃止することはできない。
5. 市民協働の実施状況はどうか（どのような市民参画・市民活動との連携等を実施したか） B 事業にNPO、市民団体等が参画している 狂犬病予防注射接種や登録原簿整理等事務を県獣医師会に委託している。動物愛護推進員を委嘱し、動物愛護教室等、市の事業に協力を得ている。また、譲渡ボランティア制度を創設し、譲渡推進するために、市民等の協力を得ている。

【有効性評価】

6. 事業の成果（成果指標値）を向上させる余地はあるか B 向上余地が考えられる（中小程度） より市民に動物愛護の普及啓発ができるよう、情報発信方法を検討する必要がある。
7. 事業執行上の見直しを行ったか（昨年度何か業務の見直しを行ったか） A 実施済み／実施する必要がなかった 保健所のみで行っていた適正飼養講習を、より地域の人に受講してもらうために、4カ所のコミュニティセンターで開催した。また、高松市動物情報サイトのリニューアルや適正飼養等の展示パネルイベントを実施し、多くの市民に普及啓発を行った。
8. 成果目標値に対する実績値（達成度）はどうだったか C 概ね達成できた 犬猫の収容頭数、殺処分率は若干減少した。

【効率性評価】

9. 成果を達成するための活動量（活動目標値に対する実績値）はどうだったか C 概ね達成できた 注射済票交付件数は昨年度と比べて横ばいであった。講習会開催数は昨年度と同程度であった。
10. コスト縮減ができたか C 少し縮減できた 注射済票交付件数は昨年度と比べて横ばいであり、コストは現状維持であった。

【一次評価】

評価区分	継続																						
昨年度と比べて犬猫の収容頭数、殺処分率は若干減少した。しかし、全国平均と比べて殺処分が多く、市民に対して、引き続き、動物愛護管理の普及啓発が求められる。																							
改革案																							
内容	<p>これからペットを飼うことを考えている市民を対象に、できるだけ多くの市民に普及啓発できるよう、適正飼養講習等の頻度や実施する場所、内容を検討していく必要がある。</p>																						
阻害要因																							
期待効果																							
<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						

【二次評価】

評価区分	継続
より一層の動物愛護の普及啓発と犬猫の殺処分数を減らすため、犬猫の譲渡を推進するとともに、市民への動物愛護管理の普及啓発や動物愛護センターの整備を推進するなど、今後とも引き続き、これらの事業を実施していく必要がある。	